

平成30年度 ふれあいファミリアミーティング報告書（桜台区）

平成30年12月10日（月）19時00分～ ◆会場 桜台児童館 参加者◆19人（男性15人・女性4人）

行政区出席者◆萩原区長ほか

町側出席者◆小野澤町長、吉川副町長、佐藤教育長、小野澤総務部長、志村民生部長、家城建設部長、柏木環境経済部長、山田教育次長、石川消防長
小川企画政策課長、和田総務課長、総務課広報・シティセールス班（油井・伊従）

	意見・要望要旨	当日の回答要旨	担当課	処理状況など
1	観光・産業連携拠点づくり事業の案を見ると、駐車場が狭く、国道412号からの接続も悪いと思います。国道との接続道路と、観光バスを止められるような駐車場を整備した方がいいと思います。	昨年、基本計画を策定し、それを基に県と調整を進めています。その中で調整池が不要となれば、そこを駐車場に変更することもできます。国道との接続の件も含めて、県や国と協議しています。ただ、国道との接続は傾斜の関係もあり、なかなか厳しい状況です。県道54号側からは入りやすいですので、そちらの整備も考えています。（町長）	企画政策課	同左
2	大手の旅行会社のツアーが組まれると、集客が多くなり、物も売れるようになります。そういった意味でも、観光・産業連携拠点づくり事業では、大型バスが入れるような整備をしてください。	しっかりと頭に入れて、取り組みを進めてまいります。（町長）	企画政策課	同左
3	観光・産業連携拠点づくり事業では、太陽光発電設備を取り付けて消費電力を賄ってはどうか。また、水源地となっていたように、この優れた水を、災害時の飲料水として利用できないでしょうか。	今後、計画を進めていく中で、太陽光発電設備は必要だと考えています。飲料水として水を確保することは、水の源となる地域ですので、防災に活用できる設備も必要かと思えます。ご意見を参考にさせていただきます。（町長）	企画政策課 危機管理室	災害時における飲料水については、町水道の配水池に緊急遮断弁を設置し、確保に努めています。
4	観光・産業連携拠点づくり事業の施設は「道の駅」ではないのでしょうか。「道の駅」という名称があれば、道路標識を見て訪れる人も多くなると思います。	「道の駅」的な物産館施設を造り、多くの地場産品を買っていただければと考えています。また、目に付きやすいような標識や看板は必要になると考えています。（町長） 「道の駅」の登録には、道路・地域情報の発信、24時間利用できる休憩施設の整備、交通量の基準などがあります。24時間利用は、防犯上の観点から難しいと考えています。（企画政策課長）	企画政策課	同左
5	愛川の水はすごくおいしい水です。桜台は町水と県水の地区がありますが、味が全然違います。この水を「愛川の水」「愛の泉」と命名するなど、地域資源として活用してください。また、国が進めている水道民営化について、町の考えはいかがでしょうか。	大変おいしい愛川の水を、これからも大事にしながら水道経営を進めてまいります。民営化につきまして、現在は町で水道事業を行い、黒字経営となっています。水道使用料も右肩上がりです。町民の皆さんに安全でおいしい水を提供するためには、今のやり方が大事だと思っています。（町長）	水道事業所	水道使用料収入は、29年度に続き30年度も前年比で増加となる見込みです。黒字経営が続いており民営化の予定はありません。

	意見・要望要旨	当日の回答要旨	担当課	処理状況など
6	観光・産業連携拠点づくり事業の施設が完成した後は、町内の子供たちを招待して、愛川町の良さを知ってもらいたいと思います。子供たちに魅力が伝われば、次は家族で訪れることにもなると思います。	子供たちに町の地域資源を知ってもらうことは大事なことです。ご提案として受け止めさせていただきます。(町長) 教育委員会では、郷土資料館や水とエネルギー館、レインボープラザでの体験を通して、子供たちに地域資源を知ってもらう「郷土愛育成事業」を今年度から始めました。施設完成後は、そういったことも踏まえて、子供たちに体験をしてもらいたいと考えています。(教育長)	指導室	同左
7	横須賀水道の水道管は、将来どうするのでしょうか。道路の下に埋まっているところが、かなりあると思いますが。	約1.5メートルの深さで、直径50センチメートルの管が埋まっています。戦前に軍用として造られたものですので、管の厚みが現在の基準の約3倍近くあり、耐久性も問題ありません。水道みちの道路工事の際に、万が一劣化があった場合には、撤去もしくは管内の充填といった対応を行う考えです。(建設部長)	道路課	同左
8	町の広域避難所に防災倉庫があると思いますが、倉庫の中身は公開しているのでしょうか。厚木市ではホームページで公開しています。また、防災倉庫は500世帯に1カ所が目安ですが、桜台区では1000超の世帯数に対して1カ所しかありません。もう1カ所設置していただくか、または補助などはあるのでしょうか。	現在、公開はしていませんが、避難所運営委員会の会議の際に、中身を説明しています。防災倉庫は、平成元年度～3年度にかけて、各行政区に1棟ずつ設置しました。補助要綱の中で防災倉庫は対象となっていませんので、2カ所以上に設置する際は、行政区で対応をお願いしていますが、検討をしていますので、良い方向にもっていければと考えています。(副町長)	危機管理室	同左
9	桜台区は、広域避難所が中津小学校となっていますが、児童館をサブ避難所として活用できないでしょうか。近隣の避難所のほうが使い勝手が良いと思います。また、防災倉庫の増設もお願いします。	持ち帰って、よく協議します。(町長)	危機管理室	桜台児童館は緊急避難場所となっていますので、避難所として使用していただいても問題ありません。 防災倉庫については、No.8の副町長の回答のとおりとなります。
10	最近、低い山での登山が流行していますが、仏果山の登山口がどこなのか分かりづらいです。清川側にある「仏果山登山口」バス停や付近の駐車場を利用して登って、清川側に下りる登山客がほとんどです。愛川側でも登山道や駐車場の整備をしたり、町ホームページで案内するなど、改善すれば、町を訪れる観光客が増えると思います。	仏果山は町の最高峰ですので、しっかりと検討させていただきます。八菅山では、展望台のリニューアルしたり視界を遮る木を伐採するなど整備を進めています。観光資源として、何年かかけて八菅山周辺をさらに整備をしていく考えです。(町長) 仏果山の登山口は複数ありますが、観光マップでも分かりにくい部分がありますので、貴重なご意見として検討してまいります。(環境経済部長) 仏果山、高取山、経ヶ岳のハイキングコースには、特に春・秋の観光シーズンに多くの方が入山します。中には軽装や地理不案内の方もおり、急病や道に迷うなどにより、町消防や連携している川崎市消防のヘリコプターによる救助を行う事例も発生しています。低い山ですが、皆さんご注意ください。(消防長)	商工観光課 消防本部	町では、各登山道の入口などに案内看板を設置するとともに、公共施設などへハイキングマップの配架や町観光協会ホームページにハイキングコースを掲載するなど、ハイカーへの情報発信に努めています。また、駐車場についても既存の公共施設等の駐車場を有効活用していただくよう案内しています。 今後も、町を訪れるハイカーの皆さんの利便性向上を図るため、分かりやすい案内看板の設置やハイキングに関する情報提供に努めてまいります。

	意見・要望要旨	当日の回答要旨	担当課	処理状況など
11	仏果山の、清川側の登山口には登山届のポストがありますが、愛川側では見たことがありません。設置しているのでしょうか。	ハイキングコースで事故があったときに現在位置を知らせられるよう、ポイントマークを置いています。登山届のポストは設置していないと思います。(消防長)	商工観光課	現在、町では登山届用ポストは設置していませんが、今後、近隣自治体の設置状況や運用方法などを参考にしながら、登山届用ポストの設置について研究してまいります。
12	町一周駅伝のコースが変更になり、二井坂、半縄、桜台を通らなくなりました。地元の人たちが沿道で応援できなくなり、寂しい思いをしています。一本松から県道を走り、桜台五差路から柏木電気前へ至るコースへ戻してもらえないでしょうか。また、コース変更の際には複数案を示すなど、地元とよく話し合いをしてください。	数年前に、県道をコースから外してほしいと厚木警察署から要請がありました。事故や渋滞といった課題があったためです。そのため、コースを元に戻すのは難しい状況です。なお、コース変更の際には、関係団体の皆さんに早めにご相談をさせていただきます。(町長) 警察からの指導によりコース変更となった経緯があります。今後、変更の必要があった場合は、早めに周知をするなどして進めてまいります。(教育長)	スポーツ・文化振興課	同左
13	中津川の河原の木を、オ戸橋あたりまで伐採してください。厚木土木事務所へ要請をお願いします。	河川敷が樹林化している状況については、知事へ直接話すことも含めて、再三にわたって県に要望しています。県でもたくさんの川を抱えていますので、中津川については順次対応をしてもらっています。田代と半原で対応し、大進館の前も今年度実施の予定です。土手の除草作業も、しっかり対応してもらっています。(町長)	道路課	同左
14	町のごみカレンダーなどは新聞折り込みで配布されていますが、若い層を中心に新聞を購読していない方が増えています。さらに自治体加入者も減っている中で、町として情報提供をどう考えていますか。	町としても、このままではいけないと考えています。今後、多くの皆さんに周知・PRをできる方法について、検討を進めていきます。(町長)	総務課 環境課	現在、町で行っている新聞折り込み、自治会配布のほか、全戸配布やホームページでの情報提供など様々な方法がありますので、費用対効果を踏まえつつ検討してまいります。